

「祝！同窓生が教授・准教授・国立病院長就任」

この度、1期生の金田徹先生が東京歯科大学市川総合病院麻酔科主任教授に、6期生の砂川昌範先生が名城大学大学院看護学研究科人間健康学部看護科教授に、5期生の富田雅人先生が長崎大学大学院医学研究科整形外科学准教授に、7期生の福治康秀先生が独立行政法人国立病院機構琉球病院の病院長に就任されました。我々同窓会会員にとっても大変喜ばしいニュースですので、今後の抱負について寄稿していただきました。

教授就任のご挨拶

東京歯科大学市川総合病院麻酔科主任教授に就任して

東京歯科大学市川総合病院麻酔科 主任教授 金田 徹 (1期生)



琉球大学医学部医学科同窓会の皆様こんにちは。このたび2015年4月東京歯科大学市川総合病院麻酔科主任教授を拝命し就任させていただきました。私は以前2009年4月東海大学医学部医学科外科学系麻酔科准教授に就任させていただきました

際にご挨拶させていただきましたが、このたび再度皆様の前にてご挨拶させていただきます機会をいただきましたこと誠に光栄に思います。1987年3月琉球大学医学部医学科を卒業以来、慶応義塾大学医学部麻酔学教室の一員として、また東海大学医学部医学科外科学系麻酔科にて麻酔科医としての研鑽を積んで参りました。この間多くの方々にご指導並びにご高配をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

今回麻酔科部長として就任させていただきました東京歯科大学市川総合病院は文字通り東京歯科大学の付属病院です。本邦では歯科大学が医科の付属病院を有するのは本大学のみであり、日本唯一の歯科大学が持つ570床の医科付属病院という施設であります。また東京歯科大学は日本最古の歯科大学であり、私が尊敬する野口英世先生が今から約120年前に東京歯科大学の前身である高山歯科医学院にて教鞭をとったという歴史のある大学です。そしてこれを知り私がこの施設で仕事できることに大変感銘を覚えました。というのも思い起こせば1981年琉球大学医学部医学科を受験した際の面接試験で、医学部志望の動機の1つで尊敬する人物として野口英世先生のことを述べさせていただいたからです。私自身が医学の道に進むきっかけとなった偉大な先生と同じ施設で自分

が臨床、研究、教育の中心として仕事をさせていただけることに心から喜びを感じております、と同時にその責任の重さを痛感しております。

今まで私の立場は、講師、准教授とその診療科の主宰者（教授）のもとに自分が存在しており、その中で自分自身に与えられた仕事を全うするという立場で精一杯努力して参りました。しかしながらこれからは自分自身がその診療科の主宰者となり、臨床、研究、教育全ての面でその采配が求められ、さらには病院経営にも貢献していかねばならないというその責務の大きさをひしひしと感じております。そのような中、先日自分の心に大きく響いたある言葉に巡り会いました。その言葉を記します。

『やってみせ 言って聞かせて させてみて 褒めてやらねば 人は動かず。 話し合い 耳を傾け 承認し 任せてやらねば 人は育たず。 やっている姿を感謝で見守って 信頼せねば 人は実らず。』

この言葉は自分がこの職務を全うしていく上で必要かつ忘れてはならないことを述べていると確信しました。これから一人のまた多くの優秀な麻酔科医を育てていく上でここに記されていることを実践する努力を怠らず、大きな目標の1つと掲げ、これから精進することを心に刻み今後の自分の仕事を全うしていきたいと考えております。

最後に、皆様ご存知かと思いますが麻酔科という診療科は全国的に人材不足の状況にあります。これは琉球大学においても同様かと思えます。特に研修医の皆様、また学生の皆様、麻酔科という診療科に是非興味をもっていただき、選択していただけたら嬉しいことと思えます。そして同窓生の皆様と御一緒にお仕事ができる日が来ることを心より楽しみにしております。